



那覇市歴史博物館企画展

『那覇の史跡・旧跡』～みんなで歩こう Naha City～

博物館
topics

「那覇の史跡・旧跡」
みんなで歩こう Naha City」と題し、企画展を開催します。企画展は、前期・後期に分け、前期では首里・真和志地区の史跡・旧跡を紹介し、那覇市内にどのような史跡・旧跡があったのかを知ることもできる機会です。

那覇市は、1944年の10・10空襲、その後の地上戦により、首里城や円覚寺など琉球王国時代の歴史・文化遺産や、那覇市役所などの近代建築の多くを、消失しました。本市では、沖縄戦や戦後の復興・開発の過程で失われた市内の旧跡、歴史的地名が残る場所に、説明標示板を設置し、地域学習や観光案内など、本市の文化的街づくりに役立つことを目的に、1994年、那覇市旧跡・歴史的地名標示事業を始めました。

旧跡標示事業では、まず、有識者で構成する那覇市旧跡・歴史的地名標示委員会を組織し、那覇市内の史跡・旧跡地約500カ所から、歴史・民俗・地名などに分類し、標示板設置候補地100カ所余りを選びました。1995年、戦後50周年を記念して、沖縄戦中、激戦地といわれたシガーロード跡(現新都心安里配水池帯)、カテドラルイ海軍壕跡(現小祿市宮住宅後方田原公園帯)の戦跡の2カ所に旧跡標示板を設置しました。事業開始から20年経たない2014年3月10日、那覇市内の106カ所に標示板を設置します。歴史博物館では、標示事業の完了を記念して、



▲旧跡標示版「沖縄県立農事試験場跡」

那覇市歴史博物館
那覇の歴史・文化を体験

開館時間 10時～19時 木曜休館 ☎869-5266

城岳幼稚園シーサー展

城岳幼稚園の園児が作った面シーサーを展示いたします。園児たちの個性あふれる作品をぜひご覧ください。

日 3月1日(土)～3月9日(日) 場 3階 企画展示室

費 無料

茶の陶器

那覇市立壺屋焼物博物館が所蔵する飲茶道具を展示します。人間国宝作家による茶陶が集められたK&Kコレクションや、沖縄県外・国外の陶磁器が収集された上神亮治コレクションから煎茶道具などを選び展示します。

日 3月12日(水)～3月23日(日)

場 3階 企画展示室 費 無料



▲金城次郎作「描茶碗」



▲琉球王国時代「呉須山水文急須」



当館は空調設備取替え工事のため休館しておりましたが、工事が完了いたしましたので、3月1日(土)より開館いたします。

☎862-3761
FAX 862-3762

協働さん いらっしやい!

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第36回 大浅田均さん(那覇市協働によるまちづくり推進協議会副会長)

昨年、那覇市協働によるまちづくり推進協議会が行った福島県いわき市復興支援「シーサープロジェクト」において、中心的な役割を果たしていたのが、協働大使で協議会副会長の大浅田均さんです。

13年前、転勤を機に沖縄に来ることになった大浅田さんは、職場での社会貢献活動で環境問題に取り組む中、「11を減らすにはどうすればいいのかわからない」と悩んでいたとき、那覇市市民大学、そして市民協働大学に参加させてもらい、「11減量に向けた活動を広げることができました」と話し、それから協働大使としての市民活動がスタートすることになりました。その後、協議会の立ち上げから役員として参加し、3年目になります。

「シーサープロジェクト」について、大浅田さんは「皆さんの思いのベクトルを一つにできたのはうれしかったですね」と活動の成果を述べてくれました。「私は、個人的に阪神・淡路大震災で悔しい思いも経験していたので、東日本大震災の被災地の方々への思いは強く、何か支援ができないかと思っていた」と



▲「共生」で協働のまちづくりを目指す大浅田さん

協働による交流の創造

「限られた人生、自分にもなにかできることはないか」とそんな問いかけをしながら、社会に目を向けて行動を起こしてきた大浅田さん。その経験から「相手を知る」という大切さを学んだそうです。大浅田さんの心には「共生(ともいき)」という思いがあり、それが「協働」への共感に繋がっています。

シーサーと共に贈った大浅田さんの句「ていでシーサー 黒潮のぼる小春風」。3・11から3年の歳月が流れる中、那覇市民の想いを乗せた協働大使の「ていでシーサー」は、いわき市の人々を見守り続けています。

「陶芸家の方からシーサー寄贈の話があり、それを協議会で被災地に届けよう」と引き受けました。寄贈先となったいわき市は、沖縄と縁のある袋中上人というお坊さんの出身地で、いわき市に知り合いがいる方に現地の方を紹介してもらい、先ずはと、いわき市を訪ねました。その時にたまたま立ち寄った居酒屋が結びつきの始まりで、居合わせた客にプロジェクトのことを話したら、沖縄に行き来している方を紹介され、後は人が人を呼び、人を結びつけ、ついにいわき市が受け入れてくれることになったんです。繋がりへの不思議さを感じました」と、当時の様子を思い起こしていました。この繋がりを継続し、今度は、両市の芸術・文化を那覇市で披露できる協働のイベントや交流を実施したいと話しました。

お問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎861-3846

歴史まわい

王府時代、首里から南の島尻へ延びる道は三通りありました。そのひとつがこの道です。御茶屋御殿(別称東苑)に連なる雨乞嶽のかけ下から、ヒジ川橋を経て識名馬場の東を通り、首里金城町石畳道から延びる真珠道に出会い、識名園(別称南苑)に至る環状線の一部にもなっていました。

「ヒジ川」の名は、坂の西にある古い井戸の名によるもので、その井戸の水がひげのように流れ落ちるので、そう呼ぶようになったと伝えられています。つくられた時期を示す文献は残っていませんが、石敷きの技法が首里金城町石畳道(一五二〇年代建設)と同じで

あることから、十六〜十七世紀頃に作成されたものではないかと推測されています。台地間の傾斜に巧みに勾配を付け、道の両脇にはその地形に合わせて石垣や土留の石積みがつくられています。さらに、戦前までの道の両側には松並木が続き、周囲の景観とよく調和するように配慮された道でした。松並木は沖縄戦により無くなりましたが、ヒジ川ピラ自体は戦禍を免れ戦後十数年間は往來に使用されていました。ただ残念ながら、道の北半分はいつのまにか破壊され跡形も無くなってしまいました。ヒジ川ピラは、首里金城町石畳道とともに市内に現存する古い二大石畳道でもあることから、残存部分である南半分については、昭和四四年に那覇市史跡として指定され、保存されることになりました。道幅は一・八m(一・三mで、南半分の約一・四五mが残っており、この内の約一・〇mが昔の姿を特によく残しています。

たまには首里城・玉陵―ヒジ川ピラ―識名園と散歩して、琉球王朝時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

※ヒジ川ピラは傾斜が急なので、歩かれる際は十分ご注意ください。

お問い合わせ 文化財課 ☎917-3501

うちなーぐちや あじくーたー

今月のテーマ ひみーちやん

この言葉は二つの語で構成されています。「みー/目」と「ひちやらん/眩しい」と「見た物がキラキラ光って、まばゆい状態。「ちらちら」は日光、星、刃物などが光る様子を表す形容詞です。(例文)「早朝、ウォーキング中に日の出」

夫：太陽が昇っていちやんやー
目：ひちやらんさー
妻：やいびーんやーたい
やしが目見そーれー
桜が満開なてい
美らさいびーん。

夫：あんやさやしが汝がどう
まさーとーんどー。
(和訳)
夫：太陽が昇ってきたね
「眩しいなー」
妻：そうです、ね。
だけと目てくたさい。
桜が満開で綺麗ですよ。
夫：そつたね、だけとお前が
もつと綺麗だよ。
ちなみに「みー ひちやらすん」は「見張る、目を光らす」で監視するの意味です。

出演 寒川百寿会 名嘉山兼英さん(左) 光子さん(右)

ロケ地と儀公園

お問い合わせ 那覇市文化協会うちなーぐち部会 ☎90-4347-8798 名我愛亭 名嘉山秀信

司法書士が無料で相談に応じます。

■ 相続、贈与と遺言
相続登記その他、家庭裁判所の手続き、遺言書作成など。

■ 成年後見
多数の後見人を務める司法書士が、実務をふまえて説明します。

■ 差押・仮差押・仮処分
預金、給料、売掛金、財産など、押さえたい方へ。

■ 日常生活の法的トラブル
商品の代金が払われない、貸したお金を返してくれない、敷金を返してもらえない、家賃を払ってくれないなど。ご相談ください。

■ 借金に関すること

■ 不動産登記

■ 会社の登記や企業法務

よへな司法書士事務所

〒900-0032 那覇市松山1-30-1 2F 営業時間：午前9:00～午後6:00(土日祝休み)
http://www.souzokuyuigon-okinawa.com

☎0120-309-157 ※相談には電話予約が必要です。

西武門 若狭大通り とりまりん
久米郵便局
よへな司法書士事務所
☆印に駐車スペース ▲印にコインパークあり
福岡園
●那覇商業高校 ●大典寺
南 久茂地交差点 国道58号線 北